

# 日本文化体験プログラム（禅寺体験などを中心として）

## Japanese Culture Experience Program (Activities with Local Residents at a Zen Temple)

章 潔・牟田 美信・冨場 康・小嶋 栄子

### 要旨

本プログラムは長崎短期大学国際コミュニケーション学科に在籍している韓国、ベトナム、中国、アメリカ、ミャンマー、台湾の留学生計 34 名を、長崎県東彼杵郡波佐見町岳辺田郷にある亀井山東前寺（真言宗）に派遣し、座禅、写経、カルタ、お琴などの日本文化体験をするものである。また、本プログラムを通して、留学生と地域住民に文化交流・国際理解の機会・場の提供を行うとともに、留学生を主体とする民間レベルでの国際交流活動の一層の促進を図りたい。

### キーワード

日本文化体験 留学生 禅寺体験

### 実績報告

#### I. 参加留学生構成（国・地域別、性別）

国籍・地域	男（名）	女（名）	計（名）
韓国	7	2	9
ベトナム	8	0	8
中国	3	4	7
アメリカ	3	3	6
ミャンマー	2	0	2
台湾	0	2	2
合計	23	11	34

#### II. プログラム日程表

2013 年 10 月 10 日（木曜日）

時間	内容	備考
11:00	長崎短期大学出発	留学生 1 班乗車（貸切バス） （学生 18 名 + 引率 2 名）

長崎短期大学研究紀要 第26号

時間	内容	備考
12:00	長崎短期大学留学生寮（南風崎町）出発	留学生2班乗車（貸切バス） （学生18 + 引率2名）
13:00	東前寺に到着	
13:05	入門式	学生代表の挨拶（アメリカ女子学生1名、 韓国男子学生1名）
13:30	波佐見町内見学	金屋神社（樹齢300年の楓の古木と杉の 大木がそびえている）、鬼木棚田。
14:30	絵付け体験	陶芸の館で
16:00	東前寺に戻る	
16:05	境内清掃、食事の準備	
16:40	清掃終了	
17:00	波佐見温泉	
19:00	地域の住民と一緒に食事会	
19:30	片付け	
19:35	写経体験	
20:00	波佐見町の中高生との交流会	
22:00	自由時間	
23:00	消灯、就寝	

2013年10月11日（金曜日）

時間	内容	備考
06:00	起床	
07:00	勤行、座禅体験	
08:00	地域の住民と一緒に朝食	
08:30	片付け	
09:00	留学生によるミニ茶会（鎮信流・薄茶点 前）	亭主と半東は韓国女子学生。お茶で地域 の住民をもてなす。
10:00	日本文化体験	カルタ、お琴、波佐見音頭
11:00	清掃	
11:40	東前寺出発	貸切バス
12:40	長崎短期大学到着	

### Ⅲ. 考察およびまとめ

文化とは、長年にわたって形成してきた、それぞれの民族・地域・社会の風習・伝統・思考方法・価値観などの総称であるといわれている。衣、食、住などの日常生活全般に関わる慣習や、芸能、道徳、宗教から政治、経済といった社会構造まで、その範疇が非常に幅広い。本プログラムで取り扱う「日本文化」もその中の一つであることは言うまでもない。

日本文化を特徴的に示す概念として、「和」と「型（形）」という言葉がしばしば用いられるが、本プログラムにおいては、「型（形）」に重点を置いて取り組んできた。「型（形）」は伝統芸能や日常生活におけるお辞儀、礼儀作法、食事作法などにおいて広範に見られており、日本の美点ともされてきた。数多くの「型（形）」の中から、本プログラムが着目したのは日本の禅寺である。昔から、僧侶の日頃の修行として、①作務（さむ）、②勤行（ごんぎょう）、③学門（がくもん）といわれてきた。作務とは掃除や片付けなどの作業のことであり、修行の中に最も大切なものとされてきた。本プログラムの実施地を長崎県東彼杵郡波佐見町岳辺田郷にある亀井山東前寺に定めた。留学生たちが日常から離れた禅寺での座禅、作務、食事作法、写経などの体験を通して、日本文化の「型（形）」に触れ、日本留学生活に必要な礼儀・規律を学ぶことができると考えられる。

また、「型（形）」の代表的なものに「茶道」がある。お点前という「型（形）」を学習することによって、お茶の心・おもてなしの精神を身につけることができる。長崎短期大学では、長年、茶道文化（鎮信流）を必修科目として教育を進めてきた。本プログラムでは、留学生たちによるミニ茶会を実施した。長崎短期大学で習った茶道を地域住民に披露し、お茶でもてなすことによって、留学生たちが日本文化を体験するだけでなく、日本の伝統文化を継承・発展させる担い手として活躍することも可能である。

そして、留学生たちが400年の歴史と伝統を誇る「やきものの町」、波佐見町について調査し、絵付け体験などを行った。町の歴史を知ることによって、留学先の長崎への愛着がますます深められたものと確信できた。さらに、地域住民との交流を通して、留学生たちは多様な年代の日本人とふれあい、実際の日本の生活を知った。地域住民も、ほかの国の事情を知り、異文化交流ができた。留学生は大学生活だけではなく地域の中で円滑に適應するための方法を身につけなければならない。これから、留学生が日本との関わりのある中で生活・就職するには、母国での視点で生活することだけではなく、日本の文化や習慣などを知り母国と日本との融合をはかることが必要である。それゆえに、本プログラムの実施を通して、「型（形）」（習慣、歴史、生活様式）などの日本文化に関する様々な分野を網羅し、理論を勉強すると共にフィールドワークを取り入れて実践的に学び、長崎短期大学で学ぶことの意義を理解すると共に、日本での生活への適應を高め、より実りのある留学生生活を送るための能力を身につけることを願っている。

# 琴、写経…イイネ!!

波佐見 長崎短大留学生在が禅寺体験



長崎短大（佐世保市）で学ぶ留学生34人がこのほど、東彼波佐見町岳辺田郷の真言宗東前寺を訪れ、1

泊2日で座禅などの体験をした。同大の日本文化学習の一環。国際コミュニケーション

檀家の人（左）から琴の弾き方を教わる留学生。波佐見町、東前寺

ン学科で学ぶ中国、韓国、ベトナム、米国などからの留学生が参加した。

一行は境内の掃除や座禅、写経などを体験。檀家（だんか）の地域住民との交流会もあり、留学生が茶道の作法で茶を入れてもてなした。檀家は琴を奏でて歓迎した。

檀家から琴の弾き方を教わった米国のマット・イブソンさん（24）は「日本の伝統を体験できて良かった。琴はなかなかクリアな音が出せず難しかった」と話した。

（宮崎智明）

長崎新聞記事（2013年10月17日）